

CALL用語学教材としての宮崎駿アニメ ——映画『魔女の宅急便』ドイツ語版を例に——¹⁾

山 室 信 高

目 次

はじめに

1. 教材となる背景

2. 教材加工と授業方法

3. 異文化理解にもとづくコミュニケーションに向けて

参考文献・資料

はじめに

ここ数年、宮崎駿監督のアニメーション映画『魔女の宅急便』(1989)のドイツ語吹替版DVD²⁾をCALL (computer assisted language learning) のドイツ語の授業で活用している。

13歳の少女キキが一人前の魔女になるために、お供の黒猫ジジといっしょに故郷を離れ、海辺の大きな町にやって来て、そこで空を飛ぶ魔法を生かして宅急便の仕事を始め、さまざまな試練を経ながら、自分の居場所を見出していくというおなじみの物語。ところが、このキキや登場人物たちがドイツ語を話して動き出すとなると、見慣れたストーリーもキャラクターも一風変わって見えてくる。授業を履修する学生たちも最初このドイツ語をしゃべるキキを見て、ちょっとしたカルチャーショックを覚えるようである。

1) 本稿は東洋大学人間科学総合研究所主催の公開シンポジウム「異文化理解と外国語教育——グローバル化とコミュニケーション」(2016年11月12日)にて筆者がパネリストとして行なった発表「コミュニケーションのための語学教材としての宮崎アニメ——映画『魔女の宅急便』ドイツ語版を例に」にもとづく。会場からの質問やコメントが本稿をまとめるに際し有益だったこと、記して感謝する。

2) Miyazaki [2005]。ドイツ語版のタイトルは「キキの小さな宅配サービス」という。これにはオリジナルの日本語はもちろん、英語の吹替も収録されている(版によっては英語が未収録のものもある)。このDVDからの台詞の引用は分および秒数を記す。

しかし今やドイツ語だけでなく、いろいろな言語によって吹き替えられた『魔女の宅急便』がインターネット等を通じて簡単に手に入り、いつでも視聴できるようになっている。³⁾ これも——吹替という以前からあるテクニックは別にして——近年のグローバル化がもたらした一種の「多言語状況 (multilingualism)」と言えようが、語学教材としての『魔女の宅急便』について論じる前に、そうした「多言語」のキキが現れる背景と経緯を簡単に振り返っておこう。

1. 教材となる背景

よく知られているように宮崎駿の作品にはヨーロッパを舞台にしたものが多い。初期の『天空の城ラピュタ』(1986) はイギリスのウェールズ地方の炭鉱地帯、『紅の豚』(1992) はイタリアのアドリア海沿岸、そして後年の『ハウルの動く城』(2004) はフランスのアルザス地方の街並が舞台背景になっている。⁴⁾ この『魔女の宅急便』とはいえば、バルト海のゴトランド島のヴィスビューやスウェーデンの首都ストックホルムの旧市街ガムラスタンでスタッフがロケハンを行なったということから、北欧的な風景・風情に富んだ舞台が設定されている。⁵⁾ 特に明示的にドイツというわけではないものの、バルト海辺のハンザ都市 (ヴィスビューもストックホルムもかつてハンザ同盟に所属) を思わせる港町の光景、町の中心にそびえるゴシック風の教会塔、路面電車が行き交う石畳の道路、キキが下宿するパン屋の軒先にかかるプレートルを象った看板、物語の終盤で一つの役回りを演じるツェッペリン型の飛行船⁶⁾ など、ドイツ的な文物・意匠に彩られている。もちろんこれは——宮崎駿自身も『『魔女の宅急便』の舞台というのは、第二次世界大戦が十年遅れた世界』⁷⁾ だと言っているように——架空のヨーロッパであり、文字通り「絵に描いた」ドイツではあるが、それだけいっそう日本人の中にあるヨーロッパやドイツの漠然としたイメージを細やかに図像化して一種のリアリティを生み出している。

『魔女の宅急便』が制作され、公開された当初 (1990年前後、東西冷戦の終結期) は宮崎駿がまだ世界的な名声を得る前で、この時点ではもっぱら日本国内のマーケットを指向した、ヨーロッパないしドイツの文化・文物の一方向的な受容という、近代日本において支配的な対西洋パターンに則っていた。ところが21世紀への変わり目になると、ディズニーによる英語版 (1998)⁸⁾ を皮切り

3) 最新のBlu-ray盤には日本語とともに、英語、フランス語、ドイツ語、中国語 (北京語、広東語) の吹替バージョンが収録されている。宮崎 [2012] 参照。

4) スタジオジブリのホームページQ&A集、「作品の舞台はどこですか？」の項を参照。

5) スタジオジブリ／文春文庫 [2013]、39、134頁参照。また同書所収の一連の美術ボードも参照のこと。

6) 天沼 [2013] 参照。

7) 宮崎 [2013]、284頁。

8) 英語版にはオリジナルの日本語版にはない、かなりの音声上の演出が加えられている。それに比べてドイ

に、スペイン語（2003）、フランス語（2004）、ドイツ語（2005）⁹⁾と次々にヨーロッパの主要な言語のバージョンが作られることで、いわば「逆輸入」、一種の「里帰り」の事態が起こった。これはちょうど産業や市場のグローバル化が本格的に進展し、日本が漫画やアニメのソフトパワーを戦略的に売り出そうとする大きな流れとリンクしているが¹⁰⁾、この『魔女の宅急便』をはじめ、宮崎アニメの世界進出の様相を観察してみると、グローバル化が一般に想定されるように世界をフラットに平均化・一体化するのではなく、かの「逆輸入」の現象¹¹⁾にもよく表れているように、異文化間の交流を多重化し、複合化していくということがわかる。『千と千尋の神隠し』に寄せた、ドイツでの映画評には、「[宮崎駿の作品において] 発展は想起と結びつく。日本の映画がアニメーション映画において初めてグローバルな文化交流に歩み入ったということ、そしてグローバルな形で真に実り豊かな文化に成熟することができたということを想い起こさせるのである。現代の日本アニメ（Animé）においてこそ、他の映画ジャンルに見られないほどに、東と西が互いを映し出す。この歴史的な自己確認においてアニメは今日その芸術の頂点にある」¹²⁾と述べられている。だが現在は、宮崎アニメにおけるこのグローバルな「東と西」の相互認識のプロセスがさらにもう一步進んで、さらなる「逆輸入」、「再逆輸入」とも言うべき事態に至っている。すなわちそれらの英語版やドイツ語版を日本における外国語の教育現場で教材として活用するまでになっているのである。以下ではその一例として私のCALL授業の試みを紹介したい。¹³⁾

2. 教材加工と授業方法

私は『魔女の宅急便』のドイツ語版を初級文法および初歩的なコミュニケーションをひととおり学んだドイツ語学習者を対象に、すなわち初級後期から中級レベルにかけての授業で教材に用いている。

ツ語版はオリジナルに忠実に作られている。

9) 宮崎アニメのドイツ語圏への受容全般については、vgl. Nieder [2006], S. 7f.

10) 映画『もののけ姫』（1997）が1999年に全米で公開され、また『千と千尋の神隠し』（2001）が2002年にベルリン国際映画祭で金熊賞、2003年にアカデミー賞（長編アニメ部門）を受賞したことはこの流れの顕著な現れである。

11) この「逆輸入」の古典的な前例として、高畑勲の演出で、宮崎駿も制作に携わったテレビアニメーション『アルプスの少女ハイジ』（1974）がある。『ハイジ』は1970年代後半にヨーロッパ諸国で広く放映されたが、当時は日本製のアニメーションであると認知されることはほとんどなかったというほど、本場の地ですんなり受け容れられた。当時としては珍しいロケハンを徹底的に行ない、スイスの自然と暮らしを丁寧に描いたことは『魔女の宅急便』にも通じる。坂本 [2011] 参照。

12) Balzer [2002], Sp. 4. またNieder [2006] は宮崎アニメに「両方の側から通行可能な異文化間の橋」（S.56）の意義を認めている。

13) CALL授業ではないが、『千と千尋の神隠し』のドイツ語版を使った授業例として、藤井 [2008] 参照。

この映画を語学教材とするにあたってはいくつか特筆すべきメリットがある。第一に、映画自体の圧倒的なポピュラリティである。一般に語学の授業で映画を教材にすることは珍しくないが、学習者の側に当の映画についての予備知識が欠けている場合、その説明にかなりの時間を割かなければならず、本題の語学になかなか入れない。この点、宮崎アニメならばそうした手間はだいぶ省ける。私のこれまでの授業経験からも『魔女の宅急便』をまったく知らないという学生はまずいない。また映画を教材にしようとする、どうしても好悪の感情が絡まざるをえないが、この点もあまり心配はいらない。学生たちは男女を問わず、幼い頃から慣れ親しんできた宮崎アニメにおおむね好意的であるし、その中で『魔女の宅急便』はやや地味ではあるが、かえって評価は安定しているようである。第二に、これは上記のこととも関連するが、もともと日本の映画であるから、たとえ吹き替えられていても日本語のペースに拠っているため概括的理解に支障が少ないことである。これが例えばドイツの映画になると、予備知識がない上に、直にドイツ語の台詞に直面しなければならず、初級段階を終えたばかりの学習者には負担が大きい。そして第三に、最大のメリットとして、『魔女の宅急便』は他の宮崎作品に比して冒険活劇的要素が少なく、箒で空を飛ぶという一点を除いて、ふつうの少女のふだんの生活の何気ない場面を丁寧に描いていること¹⁴⁾によって、日常のコミュニケーションに重点を置く語学に向いているということである。

このようなメリットがあるとはいえ、この映画を実際にドイツ語の授業に投入するためには、やはり教材加工（Didaktisierung）の作業は不可欠である。そこでテクニカルな面ではCALLシステム¹⁵⁾に備わる機材・機能を全面的に活用している。

まず授業の準備作業として、映画のあるまとまったシーンのドイツ語の台詞をすべて書き起こして、重要語句をピックアップし、次のような語句リストを作成する。これはキキが修業の旅へと出発する決心をして母親にそれを勢い込んで伝える、30秒余りの冒頭シーン¹⁶⁾のものである。

„Kikis kleiner Lieferservice“ Szene 1 Wörter und Wendungen (サンプル)

heute Abend

los|gehen

der Wetterbericht (< das Wetter + der Bericht)

hören (過去基本形： 過去分詞：)

14) 日常生活のきめ細やかな描写はこの映画の非常に重要な要素である。スタジオジブリ／文春文庫 [2013]、121-123頁所収の監督インタビューを参照。

15) 私が現在使用しているCALLシステムは株JVCケンウッドのWeLLと株チエルのCaLaboである。

16) Vgl. Miyazaki [2005], 01:15-01:50.

der Himmel (⇔)

klar (⇔)

der Vollmond (< voll + der Mond)

wieder

das Radio

mit (副)

raus|nehmen (話) (= heraus / hinaus|nehmen)

Warum nicht? (話)

sich⁴ entscheiden (過去基本形： 過去分詞：)

wollen (現在： ich du er 過去基本形：)

um⁺⁴ (時間) verschieben

der Monat

wer weiß, ob (+副文)

nächst (< nah)

mit|spielen

bei⁺³

der Sternenhimmel (< der + der)

los|fliegen

Warte mal! (話)

中にはやや難しい語句や口語表現も見られるが、大部分は——複合語や分離動詞の場合は分解すれば——初級レベルの語彙である。学生たちは予習課題としてリストに載っている語句の発音と意味を関連語句（同義語や反意語）や既習の文法事項（動詞の人称変化・時制変化など）とともにチェックしてくる。特に発音は疎かになりがちなので、授業の時も声を出させて確認するとよい。

次にもう一つ、日本語とドイツ語の対照スクリプトを用意する。その際、ドイツ語の台詞は重要語句・表現の箇所を適宜空所にしておく。以下は上掲の語句リストに対応する日独対照スクリプトである。

„Kikis kleiner Lieferservice“ Szene 1 Skript (サンプル)

JAPANISCH

DEUTSCH

キキ：ジジ、今夜に決めたわ。出発よ。 Jiji, _____ geht's _____ !

お母さん！あ、いらっしやい。

Mama! _____ .

お母さん、天気予報聞いた？

Mama, _____ du den Wetterbericht _____ ?

今夜、晴れるって、

_____ ist _____ ,

絶好の満月だって。

außerdem _____ Vollmond.

母：キキ、あなたまたお父さんのラジオ
持ち出したの？

Kiki, _____ du schon _____ Papas Radio
_____ ?

キキ：ねえ、いいでしょう？

Ja, _____ ?

ドーラさん、こんにちは。

_____, Dora.

私、決めたの。

Ich _____ .

今夜にするわね。

Ich _____ .

母：だって、あなた、ゆうべはひと月
延ばすって。

Aber Kiki, du _____ das doch _____
_____ verschieben.

キキ：次の満月が晴れるかどうかわから
ないもの。

Aber _____ , _____
_____ das Wetter noch mitspielt.

私、晴れの日に出発したいの。

Ich _____ klarem Sternenhimmel
_____ .

母：あ、待ちなさい。キキ！

_____, _____ , Kiki!

授業の間ではこのスクリプトを作業シート（Arbeitsblatt）にしてドイツ語の台詞のリスニングを行なうことになるのだが、その際にCALLに備え付けのリスニング&レコーダー用ソフト¹⁷⁾を活用する。これは外部メディアから映像や音声を取りこんで、オーラル練習のための教材を作るソフトである。これに先ほどの『魔女の宅急便』のシーンをあらかじめ取りこんでおき、授業で全員のPCに配付することで、学生は個別にリスニングを行なうことができる。具体的には、先の語句リストを参照しつつ、ソフトの音速調整機能で音声を適当に（20～30％程度）減速させながら、また頭出しやリピート再生などの便利な機能も適宜使って、ドイツ語の台詞の空所をリスニングして埋

17) WeLLにはSoftware Recorder、CaLaboにはMovie Telecoという専用ソフトが入っている。

めていくという作業である。¹⁸⁾ただしそこでは聴解力だけでなく、初級文法の知識も必要とされる。例えば、上のスクリプトで「絶好の満月だって」の箇所は、ドイツ語では動詞が原則として文の第2位にあるので、ここで *außerdem* (さらに) の次には動詞が来ることを予想して聴かなければならない。さもないとこの動詞 *haben* (持っている) は、次の主語の *wir* (私たち) と連続していて、聴き分けることがかなり難しい。また *wir* も *haben* も基礎中の基礎単語だが、日本語の台詞にはこの主語と動詞は存在せず、文法的な知識で補うことではじめて聴き取れるのである。したがって初級文法の見直しがこの授業ではかなり大事になってくる。

ここは基本的に個人作業だが、時に個々のレベル差も顧慮して、ペアワークやグループワークも取り入れることが有効である。CALL では隣どうしの席だけでなく、ランダムにペアやグループを組んで、そのうち一人のPCの画面を他人と共有させながら協働して作業を進めることもできる。

スクリプトがひととおり完成したら、次はリピーティングやシャドーイングによる発音・発話練習に入る。これもノーマルスピードでは難しいので、音速を落として行なうとよい。当のソフトには録音機能もついているので、自分の発音を自身でチェックすることができるし、またその録音ファイルを講師の側で回収して発音指導に生かすこともできる。しかしここでのポイントは、ドイツ語の一語一句の正確な発音よりも、その役になりきり、感情を込めて、まとまった台詞を発話することである。コミュニケーションは特定の場面とコンテキストの中で行なわれるものである以上、このように映画のワンシーンのストーリーの流れに乗って、キャラクターに感情移入しながら、台詞を発話することで、おのずと迫真的な (*authentisch*) コミュニケーション¹⁹⁾ のシミュレーションができるのである。さらにこの発話練習をペアないしグループで、登場人物ごとに役を割り振って行なうことも可能である。ここに録音機能を併用すれば、まさに声優による「アテレコ」ないし「アフレコ」のパフォーマンスということになり、外国語学習の常套手段であるロールプレイとしては新鮮味があって、緊張感も持ちながら楽しく取り組める。例えば次のようなシーン、キキが町に着いて初めて人(時計塔の清掃夫)と話を交わす場面²⁰⁾ は挨拶やお礼などの基本表現が多く、コンパクトにまとまっているので、授業の初期段階でのアテレコ練習に向いていよう(下線部はリスニングによる穴埋め箇所)。

塔の爺：ああ、魔女とは珍しいな。

Oh, eine Hexe . Das sieht man selten .

18) 例えば、キキの最初の台詞はリスニングで穴埋めするところなる。Jiji, heute Abend geht's los. Mama! Hallo. Mama, hast du den Wetterbericht gehört? Heute Abend ist der Himmel klar, außerdem haben wir Vollmond.

19) ドイツ語教育におけるCALLが果たすべき課題の一つに「本物のコミュニケーションをどう体験させるか」ということが挙げられている。岩崎 [2010]、2、223頁参照。

20) Vgl. Miyazaki [2005], 14:30-14:50.

キキ：おはようございます。

Guten Morgen .

あの、この町に魔女はいますか？

Sagen Sie, gibt es in dieser Stadt schon 'ne (= eine)
Hexe ?

爺：いいや、近頃はとんと見かけんな。

Also nein, ich habe hier schon lange keine mehr
gesehen .

キキ：聞いた？私、この町にする。

Hast du das gehört , Jiji? Hier bleiben wir .

おじいさん、ありがとう。

Haben Sie vielen Dank !

Auf Wiedersehen !

爺：いいや。

Keine Ursache .

付言すると、学期末の履修者アンケートでは「もう少しアテレコをやりたいかった」、「貴重なリスニング、スピーキングができる」、「アフレコによって文章を覚えられた」といったポジティブなコメントが得られた。

3. 異文化理解にもとづくコミュニケーションに向けて

以上、『魔女の宅急便』ドイツ語版を教材としたCALLでの授業例をひとつおし紹介した。この授業の重点は主に次の4点にまとめられる。

- ①日常的な語彙・表現の習得
- ②初級文法の復習と定着
- ③リスニングおよび発音・発話のトレーニング
- ④具体的な場面・状況に即したコミュニケーションの実践

①、②、③は基本的に外国語としてのドイツ語の技能に関することだが、最後の④のコミュニケーションという点は単にドイツ語だけの問題にはとどまらない。ドイツ語と日本語、さらにはヨーロッパないしドイツ文化と日本文化、すなわち異文化と自文化の比較対照を通じたコミュニケーションの問題にまで及ぶ。ここではいくつか簡単なドイツ語の台詞に即して具体的な例証を示したい。

『魔女の宅急便』では主人公のキキが新しい町にやってくるという筋立てからして人と挨拶を交わす場面が多い。先の冒頭シーンでも母親のところに來ているお客さんに„Hallo, Dora“と声を掛けていたし、また時計塔のおじいさんにも„Guten Morgen“と朝の挨拶を送っている。言うまでもなく挨拶は日常的コミュニケーションの初歩であるが、ドイツ語の授業では初回に基本フレーズを何度か暗唱して済ませてしまうことが通例のように思われる。しかし一口に挨拶と言ってもコンテキス

トに応じていろいろある。次の例を見てみよう。

おソノ：奥さ～ん！忘れ物！奥さ～ん！ Hallo! Sie haben was vergessen! Hallo!²¹⁾

これはキキが下宿することになるパン屋の女将のおソノさんに初めて出会う場面で、そのおソノさんが忘れ物をした女性客に遠くから呼び掛けるところである。日本語では「奥さん」となっているのが、ドイツ語では単に„hallo“である。日本語では（既婚の）女性に「奥さん」と呼び掛けることが可能だが、ドイツ語にはそのための適当な言葉がないために、ここでは„hallo“という相手の注意を引く挨拶表現が用いられている。²²⁾電話での「もしもし」に当たる„hallo“に通じる表現であるが、ドイツ語のコミュニケーションでは電話に限らず、このように使用範囲が広い。このことは„hallo“を軽い挨拶の言葉と知っているだけでは不十分で、こうした具体的な文脈を踏まえてはじめて適切に理解できる。

ところで、ドイツ語にもやや古風ながら、女性に対して„gnädige Frau“という呼び掛けの言葉があるにはある。直訳すれば「慈しみ深い夫人」ということで、日本語の「奥様」に近いニュアンスを持っているが、上のシーンの少し後に、実際にこの言葉が出てくる。

キキ：本当ですか、奥さん？ Ehrlich, gnädige Frau?

おソノ：（ハハハ…）奥さんじゃないよ。 (hahaha...) Ich bin doch keine gnädige Frau.

ここにゃパン屋のおソノで Sag einfach Osono zu mir!

通っているんだよ。 Das reicht völlig.²³⁾

日本語ならばこの場合「奥さん」でもさほど支障がないように思われるが、おソノさんはさりげなく自分の名前をキキに伝えて、やんわりとこの呼称を退けている。それに対してドイツ語では„gnädige Frau“はいかにもぎこちなく聞こえ、それゆえおソノさんの„Sag einfach Osono zu mir!“（「いいからおソノと呼んで」）という直接的な要求がドイツ語の、さらにドイツ文化の文脈によく合っている。

なおもう一つ、この相手への呼び掛けという問題に関連して、英語以外の大部分のヨーロッパ言語に存在する二つの二人称代名詞、ドイツ語でいえば„du“と„Sie“について興味深い観察ができる。

21) Miyazaki [2005], 19:50-19:55.

22) ちなみに英語版ではフランス語の„madame“に由来する„ma'am“が使われている。

23) Miyazaki [2005], 23:02-23:10.

このいわゆる「親称」と「敬称」の二人称代名詞の使い分けは、ドイツ語の初習段階では相手との距離感、すなわち親しいかよそよそしいかによると教わる。しかし容易に想像がつくように、この使い分けは微妙な場合がままある。それでも一つの目安としてファーストネームで呼び合う仲は du、敬称付きの名字で呼び合う間柄は Sie であり、しかも du ならば互いに du で、Sie ならば互いに Sie で呼び合うという相互性の原則がある。²⁴⁾そこでキキとおソノさんの場合を見てみると、おソノさんはキキを初対面から du で、一方キキはおソノさんを Sie で呼んでいる。この例外的ケースは、おソノさんの側には10代半ばくらいまでの子供に対しては、たとえ親しくなくとも du で話すという慣習があること、しかもキキの方では13歳の子供ながら大人の礼儀作法として Sie の用法を弁えているという事情から生じている。²⁵⁾しかしまたおソノさんが先ほど「いいからおソノと呼んで」とファーストネームで呼ぶように求めた後でも、キキは次のように「おソノ」と素直に呼び掛けながら、それでも Sie を使い続ける。

キキ：おソノさんって、いい人ね。

Osono, Sie sind eine gute Fee.²⁶⁾

このファーストネームと Sie の組み合わせはドイツ語のコミュニケーションとしては変則的であり、Sie から du への暫定的な移行段階と考えられるかもしれない。²⁷⁾しかし翻って日本語では——そもそも人称代名詞が問題になっていないこともあって——「おソノさん」という「さん」づけの呼称（さらに接頭語の「お」）をもってごくふつうのやりとりがなされている。

このようにドイツ語の台詞をよく吟味し、日本語のそれと突き合わせてみることで、ドイツ語によるコミュニケーションの機微に触れることができる。そしてそこにはもちろんコミュニケーションを支える文化の問題が潜んでいる。„du“と„Sie“の使い分け一つをとっても、それは文法規則というよりはむしろ文化的な約束事であり、当の文化の外からは容易に窺い知れないところがある。ドイツ語を含め、外国語の授業はともすれば言語を単なるコミュニケーションの手段と見なし、便利な道具として上手に「使える」ようになることを重視しがちだが、この『魔女の宅急便』を CALL 用教材とした授業では、グローバル化のなかで「多言語」になったキキとともに、異言語に

24) 在問 [2006]、203頁：「2 人称代名詞の使い方は原則的に相互的である」。

25) 同上：「ただし子供と大人の対話に限り、子供が Sie で呼びかけ、大人が du で呼びかける」。また大岩 [1997]、187-188頁の、子供が大人に対して du を使うか、Sie を使うかに関する見聞も参照。

26) Miyazaki [2005]、28:20-28:22。無理に訳せば、「おソノ、あなたはいい妖精です」。

27) 私の個人的経験では、ドイツ留学時に指導教官からファーストネームで呼び掛けられながら、Sie で話していたということがあるが、そこでは——キキとおソノさんの場合とは違って——Sie の「相互性」は保たれていた。「Sie と du の中間の段階」については、小塩 [1988]、153頁も参照。

よるコミュニケーションの微妙な文化的差異に敏感になることが目指されているのである。

参考文献・資料

- 天沼春樹 [2013]: 「飛行船と魔女がとぶ空」、スタジオジブリ／文春文庫編『ジブリの教科書 5 魔女の宅急便』(文藝春秋)、236-242頁所収
- 岩崎克己 [2010]: 『日本のドイツ語教育とCALL その多様性と可能性』(三修社)
- 大岩信太郎 [1997]: 『ドイツ語のこころ』(三修社)
- 小塩節 [1988]: 『ドイツ語とドイツ人氣質』(講談社)
- 在間進 [2006]: 『詳解ドイツ語文法』(大修館書店)
- 坂本哲史 [2011]: 「うたの旅人 アニメ『アルプスの少女ハイジ』 主題歌『おしえて』」(『朝日新聞be on Saturday』 2011年9月17日)
- スタジオジブリ／文春文庫 [2013]: 『ジブリの教科書 5 魔女の宅急便』(文藝春秋)
- スタジオジブリのホームページQ & A集: <http://www.ghibli.jp/qa/>
- 藤井明彦 [2008]: 「『千と千尋』のドイツ語」(日本独文学会のホームページのコラム: <http://www.jgg.jp/modules/kolumne/details.php?bid=47&cid=1>)
- 宮崎駿 [2012]: 『魔女の宅急便』[Blu-ray] (ウォルト・ディズニー・ジャパン)
- 宮崎駿 [2013]: 『風の帰る場所 ナウシカから千尋までの軌跡』(文藝春秋)
- Balzer, Jens [2002]: Erinnern, wiederholen, durcharbeiten. Neue Werke von Miyazaki Hayao und Nakamura Takashi: japanischer Trickfilm auf der Berlinale. In: *Berliner Zeitung* vom 13. Februar 2002
- Miyazaki, Hayao [2005]: *Kikis kleiner Lieferservice*. München (Universum Film GmbH)
- Nieder, Julia [2006]: *Die Filme von Hayao Miyazaki*. Marburg (Schüren)